

地歴公民<sub>(地理)</sub>

## 京都大学 (前期)

## &lt;全体分析&gt;

試験時間 90 分

## 解答形式

選択式 (統計判定), 記述式, 論述式

## 分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

大問 5 題。選択式・記述式の解答個数は 30 で、昨年 (38) より減少した。一方、論述式は、字数指定のあるものが 15 問 (昨年は 13 問)、総字数 500 字 (昨年は 415 字) と増加して一昨年の 510 字に近くなり、字数指定のないものも 6 問 (20 字前後の 1 行枠中心) で昨年の 5 問より増加した。この結果、論述式全体の総字数は 600 字強となり、昨年 (約 500 字) に比べて 100 字程度増加、問題分量は昨年比較ではやや増加したと言える。大問ごとにみると、字数指定問題が I は 1 問 (50 字)、II は 4 問 (110 字)、III は 2 問 (80 字)、IV は 5 問 (140 字)、V は 3 問 (120 字) で、1 問当たり字数は、20 字が 4 問、30 字が 5 問、40 字が 3 問、50 字が 3 問であった。字数指定のないものは I で 3 問、III で 1 問、V で 2 問出題された。

## 出題の特徴や昨年との変更点

2025 年度の大問構成は、I が「地誌」、II が「地域区分」、III が「貿易」、IV が「農業」、V が「地形図」となっており、例年テーマの違いはあるものの、今年度もおよそ本学の標準的な出題構成である。問題量では、昨年と比べて大問間の差は小さくなった。例年、図表の読み取り問題が多く、本年度もすべての大問で地図またはグラフ・表が使用されており、III・IV は統計データの判定を前提とした出題となっている。

## その他トピックス

特になし

## &lt;大問分析&gt;

番号	出題形式	出題分野・テーマ	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	選択式 記述式 論述式	ロシア地誌	地図利用。経度、大地形、大都市の分布と気候、土壌、エネルギー資源、言語系統など。論述式は、(2) 大地形の特徴と成因 (無指定×2)、(3)①都市の空間的分布と特徴 (無指定)、(4)③資源の輸送手段と長所・短所 (50 字)。	標準
II	選択式 記述式 論述式	さまざまな地域区分	リード文・図利用。図は地域区分の例示として 2 種類使用。自然環境や経済水準による地域区分、FTA と EPA、ASEAN・RCEP・CPTPP への参加状況、地域区分法、GNSS など。論述式は、(2)①経済水準に基づく地域区分において国が単位地域となる理由 (20 字)、②それにより見えづらくなる地域差 (20 字)、(3)FTA と EPA の違い (50 字)、(5)②等質地域の特徴 (20 字)。	やや難
III	選択式 記述式 論述式	貿易 (輸出)	統計表利用。表は 6 か国の輸出額の GDP 比、輸出先、最大輸出品目を示したもの。貿易上の問題と対策、輸出増加の理由、輸出品目と背景、中継貿易など。論述式は、(2)中国や途上国の輸出増加の理由 (50 字)、(4)②ケニアの茶輸出の歴史的背景 (30 字)、(5)原油モノカルチャーからの脱却 (無指定)。	標準

IV	記述式 論述式	農村人口と農業	グラフ・統計表利用。グラフは 6 か国の農村人口割合の変化、表はナイジェリアの作物別土地生産性の変化を示したもの。アルゼンチンの農牧場経営、日本の農村人口減少と過疎問題、市町村合併、農村の貧困と飢餓、韓国や EU の農業政策、酪農など。論述式は、(2)①人口減少が農村の暮らしに与える影響 (30 字)、(3)ナイジェリアの農村の貧困や飢餓が改善されない理由 (30 字)、(4)1980 年代の韓国経済と人口分布の変化 (30 字)、(5)②EU の農家が有する農業生産以外の役割 (20 字)、(6)ニュージーランドでバター生産割合が高い理由 (30 字)。	標準
V	記述式 論述式	地形図読図	新旧 5 万分の 1 地形図「大分（大分川河口付近）」とグラフ利用。グラフは地形図内の地区における年齢別人口構成を示したもの。記述式は集落立地の地形、市街地の由来、モータリゼーション。論述式は、(2)CBD の判断理由 (無指定)、(4)工業団地建設と既成市街地の都市問題 (40 字)、(5)臨海部にコンビナートが立地する利点 (40 字)、(6)①住宅地における地形改変 (無指定)、②その住宅地における入居者の特性 (40 字)。なお(1)の A の範囲には崖下と台地上が含まれており判断しにくい。	標準

※難易度は 5 段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

## <学習対策>

教科書を利用した基本知識（地名や用語）の蓄積は当然だが、論述式への対応として、基本的な地理用語の語義、自然や人文現象の地域的な違いとその理由・背景などについて、簡潔に（20 字～80 字程度）ポイントを絞って書く練習を繰り返すことが必要である。また、地形図や統計図表の読み取りなど地理的技能や思考力を試す出題が多く、難問もあるので、日頃から図表の読解力を高めるよう心がけたい。特に地形図の読図問題は、毎年必ず出題されるようになっているので、早い時期から読図練習に取り組むことが必要である。これらについては、過去問を研究して確かめておこう。